

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～



令和4年度 第20号
令和5年1月9日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿2-16-14
電話 043-243-4343

新年 明けましておめでとうございます。

穏やかな正月三が日、テレビ画面には3年前までの見慣れた日本のお正月風景が、多く映し出されていた。

しかしそれでも、今年の新年も、さまざまな祈りを持ち続けることになるのだろう。年末の歌番組で聴く歌詞にも、それが強く表れていたように感じた。そんな全世界の祈りが通じて、少しでも明るい話題に包まれるような日常でありたいと思う。

本年も元気に、お達者に。よろしくお願いします。



お年玉 ～お金じゃなかったのだけど～

お年玉は、もともと年の賜物という意味だそうです。神様にお供えしたお餅などを、お下がりとして分け与えたのが始まりだといえます。



やがて、目上の者から目下の者へ、お餅やお供え以外の品物も、渡されるようになり、いつのころからかお金に変わってしまったようです。

江戸時代には、よく扇が配られたということで、年玉扇という言葉も残っています。

今では、神様とも、お供えとも無縁のものとなっていました。お年玉という言葉には、「この年初めて授かった大切な贈り物」という気持ちがこもっているはずです。

その心は子供たちに伝えていきたいですね。

(山下景子「美人の日本語」より)

子ども会席書大会

12月24日、千葉市子ども会育成連絡会行事が講堂で行われました。「席書」とは本来、先生の前で書いた作品の展示会のことですが、最近では、大勢の人が一堂に会して、習字の練習をする場として使われているようです。

この日は市内から14名の子ども会の児童生徒が集まって、学年ごとに決まって



いる課題文字を練習しました。先生の教えをよく聞いて、紙面いっぱい大きくのびのびと書いている印象でした。何枚も何枚も書いた中から、一枚を選ぶ…その作業が、習字を上達させ、ここを成長させていくような気がしました。

出品された作品の中から入賞した作品をロビーに展示する予定です。新年になりましたら子供たちが懸命に書いた文字を、どうぞご覧ください。

今一度のご確認を ～諸室の使い方

12月7日の通知により、公民館の部屋の使い方の変更については以前にもお知らせしました。今一度ご確認ください、各団体の部員の皆様で共有してください。

コロナ禍になる前のようになります…

- ① 代表の方に部屋の鍵をお渡しします。机やイスの移動などは各自で行ってください。
- ② 1時間に一回程度は窓やドアを開放して換気をしてください。(歌唱を伴う活動は、30分以内)
- ③ 活動後、使用した机やイスは元の位置に戻し、部屋の片づけ、整理整頓をしてください。
- ④ 講堂は紙モップで床を清掃してください。
- ⑤ 電気、エアコンのスイッチを切って、窓を閉め、鍵をかけてください。
- ⑥ 「使用状況報告書」を提出し、鍵を返却してください。

*アルコール消毒用ボトルが必要な方は事務室にお声掛けください。

*まだまだコロナ禍の収束とはなってきません。室内でのマスクの着用、手指の消毒、各自による健康観察など、新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力いただきますようお願いいたします。

クラブ連絡会役員会がありました

令和5年度の役員改選に向けて、役員の方による検討会がありました。令和5年度は2年に一度の役員改選にあたるので、その準備を始めています。

代表者会議開催の通知が、近々にレターボックスに配布されますので、必ずご確認ください、サークル内で情報を共有しておいてください。

年賀状 ～たかが、されど～

学生時代(小中高大のすべての時代)は、年賀状というものに全くの無頓着でした。「学校が始まればすぐに会うし・・・」、「親戚の人へは照れ臭いし・・・」など、とにかく無精者だったのです。

大人になって就職して、いつ頃だったでしょうか、「プリントごっこ」なる兵器を手に入れて、何か楽しみながら、年賀状に向き合い始めたように思い出されます。稚拙ながらも幸せに、「元気しております」、「長男が生まれました」、「悩みながらなんとかやっています」・・・などの現状報告を添えると、こだまのようなやり取りが続きました。



今ではパソコンで宛名をプリントし、裏面は絵柄の本から無数に選ぶこともできます。恩師からは励まされ、若い夫婦からは可愛らしい家族写真も載せられて届きます。年々成長していくその姿を、爺ジのような気分で楽しんでいます。「生存確認」の意味合いが大きくなっていくやり取りもあります。大晦日直前の一大作業として続けています。

最近「年賀状じまい」が多くなっていると聞きます。「家じまい」「墓じまい」と同じように、「はい、これでおしまい」の感覚でしょうか。自身が高齢になって、もうできない、書けない、ならば仕方のないことです。また、年賀状の販売枚数は年々減ってきているのが現実です。携帯電話とSNS、情報通信サービスの急激な発展によって、人と人との連絡は、いつでもどこでも誰とでも、安易に気楽に短時間でできる社会構造がそうさせていったのでしょうか。年賀はがき一枚63円を買う手間も費用もなくなりますし。

しかしどうなのでしょう。「生存確認」の一枚が届くだけでも安心しませんか。「可愛い家族写真」を見ると思わず笑みがこぼれませんか。幸せな瞬間ではないですか？ 元日の郵便ポストをのぞくのが楽しみになりませんか？

新年に届く一通の年賀状という慣習は、日本特有のものなのか私は知りません。この歳になって、その有難さをかみしめるようになっていきます。SNSとは何なのかよくわからず、時代に乗り遅れている私はその簡便さにはついていけません。まだまだ、年賀状のやり取りはずっと続けていきたいものです。「在宅勤務」「リモート会議」で済ませられる便利(?)な時代ではありますが、単なる連絡ではない、「つながり」を、日本人である私たちは年賀状から味わえるのではないのでしょうか。

サークル体験記 ～ボッチャ…楽しい！

パラスポーツの普及に取り組む「OPEN ちば」というサークルにお邪魔しました。正式なコートを少し狭くしてボッチャの練習です。ボッチャを皆さんご存じでしょうか。パラリンピックで採用され、日本代表の活躍もありました。



赤チームと青チームに分かれてボールをそれぞれ投げ(転がし)、白いボールにどれだけ近づけるかを競うゲームです。相手のボールの位置によって作戦を考えて、ボールを投げるスピードを工夫する必要があります。ボールの重さと柔らかさに慣れていないと、なかなか思うようなところに投げられません。うまくいったときには思わずガッツポーズ。作戦や狙いどころを教えてもらいながら、楽しむことができました。チャンスがあったらもう一度体験したくなりました。ありがとうございました。

季節の日本語

ゆずりは
樅

～一本の木の中のドラマ～

お正月の飾りに用いられる常緑樹です。

この木は、初夏、新しい葉が生え終わってから、古い葉が「あとは頼んだよ」というように散っていくことから「譲る葉」、つまり「ゆずりは」と呼ばれるようになったそうです。

別名、親子草です。

親から子への世代交代。昔は、家系が絶えることなく続くということを重んじたので、大変縁起がよい木とされてきました。

家系にとどまらず、人類も、多くのものを譲り受けて、この世に生まれ、また次の世代に譲っていくという営みを繰り返してきました。

譲る心と譲られる心、その受け渡しが、はてしない人類のドラマを支えてきたといえるのではないのでしょうか。(山下景子「美人の日本語」より)



ある日の講習室は能楽サークル「囃子き楽組」。謡や笛、鼓のお囃子が響いて、お正月を醸し出しているようでした。



初空に 寿ぐ調べ ♪ 春の海

・・・穏やかな年明け 今年もお元気で

(新宿公民館 館長 迎 浩二)